

平成30年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	31	学校名	静岡県立清水東高等学校	校長名	鈴木 照彦
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
積極的な挨拶の励行	週1回の実施 すべての生徒がしっかりと挨拶できる	・生徒会による登校時の挨拶運動を実施した。生徒だけでなく、教職員も含め校内での挨拶がよく行われた。 「近所の人や知り合いの人のあいさつする」と答える生徒の割合：86.3%、 「規則を守った生活をしている」と答える生徒の割合：95.2%【学校生活等に関するアンケート】	A	○校内だけでなく、校外においても地域の方々への挨拶を励行していききたい。 ○挨拶は大切。効果はあるので続けていきたい。
事故、いじめ、トラブルのない学校作り	年2回の実施	・計画どおりPTAの協力を得て登校時の交通該当指導を実施した。	B	○下校時に生徒が飛び出しをしないように減速プレートを通用門に設置した。 ●登校時だけでなく、下校の際の指導の導入
	年間計画及びいじめへの対処の確実な実施 いじめ0件	・計画的にアンケート調査を実施し、その結果を面談に生かすことができた。 ・いじめと認定した事案はなかった。 ・「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答える生徒の割合：91.8%	A	○3学期はまだ未実施であるが、早期発見に努めた。 ○いじめの可能性のある事例には、組織で対応することができた。 ●日頃からの生徒の状況に関する教員間での密な情報交換(学年部等との連携)
	ネットに関するトラブル 0件	・スマホ安全教室(2回)を開催した。 ・スマホに関するトラブル：0件 【県ネットパトロール報告】	A	○実態調査を元に、学年部・生徒会が対策を考え、20時以降のスマホ使用制限などの実施に結び付けることができた。 ●放課後等での校舎内での使用 ●情報収集・検索機器としてのスマホ使用の実情の整理
防災体制の充実	前年以上の加入者の増加	・登録数は在校生・保護者数を超過しており、一部を除いて、緊急連絡方法として有効活用できた。	A	○緊急時以外にも、全生徒・保護者への連絡手段として十分に活用できている。 ●未登録者の確実な把握と連絡方法の確保 ●登録者の把握、アンケート機能の活用
	職員研修の実施 現実的な避難訓練の実施	・校舎改築に伴いマニュアルを改訂し、年度初めに全職員員に配布した。 ・予告なしでの実施を含め、計画どおりに避難訓練を実施した。	A	○一足制となったことで避難はスムーズになった。 ○予告なしの訓練でも混乱なく実施できた。 ●昇降棟の解体工事に伴う避難経路の見直し
校内設備等の安全性の確保	月1回の点検実施	・毎日の管理当番が巡回の際に点検するとともに、各部屋の管理責任者からの修繕要望に対して迅速に対応した。	B	○破損箇所等の修繕が必要な箇所を迅速に把握し、対処できた。 ○職員室のカーテン設置など、執務環境の改善が果たせた。 ●校舎改築に伴う管理の変更等について確認 ●昇降棟解体工事(2019.2～)に伴う安全確保
教職員の資質の向上	「信頼できる先生がいる」(80%以上) 校内研修年3回 教員が外部の研修会に年1回以上参加する。(80%以上)	・新人事評価制度の説明会を実施し、確実な周知を図った。 ・管理職による授業参観、前期・後期の2回の校長面談を実施した。 ・「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：79.7%【学校生活等に関する調査】	B	○学校経営目標や分掌等の目標達成に向けた目標設定と進行管理に関する意識、新人事評価制度に対する理解は進んだ。 ●人事評価制度の目的の理解と評価の在り方に関してさらなる共通理解が必要
		・夏の校内研修会では、本校教職員を講師として複数のテーマを取り上げることができた。 ・各種研修・講座等への参加者も、昨年度を上回る人数であった。 ・夏季休業中の教科研修、進路・受験情報研究会、次期学習指導要領や高大接続改革への対応のための県外学校訪問研修(県コアスクール事業)などを計画的に実施した。	A	○新しい教育観に立った授業像やポートフォリオに関する理解を職員全体で深めることができた。 ○AIやICTを活用した多用で効果的な授業方法は、日々の実践場面に応用されている。 ●大学等の外部専門機関の方に講演を行っていただく機会の設定 ●研修内容の伝達・共有化、本校の実情に応じた活用・導入方法の検討

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
教職員のコンプライアンス意識の向上	毎月1回実施 不祥事0件	・短時間ではあるが、毎月の職員会議や懲戒処分公表に合わせて伝達・研修を実施した。 ・交通事故根絶研修(e-learning)の受講率100%は達成できていない。 ・校内での不祥事はなかった。	B	○不祥事根絶に対する教職員の意識付けはできてる。不祥事根絶に関しチェックリストにより教職員の意識を喚起した。 ●日常の言動等に対する注意喚起の継続 ●対処療法的に増える研修への対応
質の高い授業の展開 (充実した50分授業)	「授業が分かる」(80%以上)「指導のレベルに満足」(80%以上)	・校内で公開期間を設定し、公開授業・相互授業参観を行った。 ・「授業が分かる」と答える生徒の割合:82.1%、「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合:86.5% 【学校生活等に関する調査】	A	○生徒による授業評価アンケートでは「授業が理解できる」70.7%、「先生の説明がわかりやすい」89.2%、授業レベルに満足している生徒が90.9%であった。 ○2学期に新たに校内で相互に授業を参観し合う取組を実施 ●より有効で円滑に実施できるよう、期間や方法の改善
SSHの充実	普通科課題研究の指導体制の充実 関連の全国大会へ出場 課題研究を英語で表現	・第4期2年次であり、課題研究の充実と地域への普及活動に改善を加え実施することができた。 ・3学年普通科の全班、理数科の複数班が、課題研究を英語で発表した。	A	○「ちきゅうTV会議」の実施など新たな取組ができた。 ○物理班、化学班が次年度の高文祭出場を決定した。 ○普通科課題研究の優秀研究を山崎賞に応募した。 ●理数科課題研究全国大会での上位入賞
	年3回実施	・これまでに2回実施し、多くの中学生が参加した。大変好評であった。	A	○体験実験に改善が図られた。指導する高校生にとっても、本校SSHの研究課題「伝える力の育成」に繋がっている。 ●実施時期や内容など、より多くの参加を促す工夫
ICT教育の推進	校内研修2回実施 研究授業2回実施	・県事業により全普通教室にプロジェクターが設置されたことに伴い実施した。 ・平常時からICT機器を活用する教員が多くなっている。	B	○授業における教員の活用も多く、生徒に分かりやすい授業展開に寄与している。 ●県によるICT環境整備は進みつつあるが、校内に専門家がおらず、ネットワークやセキュリティに関わる部分の構築に向けた早期の対応が必要
個々の生徒のメンタル強化	担任会等で毎月実施	・学年部により、毎週又は隔週で実施して、生徒情報を共有をし、様々な見方から生徒をどのように育てていくか検討した。副担任には会の資料を配布し、学年全体でこまめに情報を共有した。	A	○担任間での生徒情報の共有は、差のない統一した指導をするうえで役立った。今後も続けていきたい。 ●副担任の参加も含めた、学年会を月に一度は実施できるような時間割の配慮
読む力の向上	貸出し数の向上	・一般貸出冊数(クラス貸出を除く)が昨年度同時期と比べて1,196冊増加した。 ・「家で読書をしている」と答える生徒の割合:31.0%【学校生活等に関するアンケート】	B	○2年生がPWの時間に読書を推奨した。新書レポートを書くための本選びに学年当初から取り組ませた。 ○「図書館からのお知らせ(新着本の紹介)」をクラス掲示から1人一枚配布に変更することで、新着本に対する生徒の意識が高まった。 ●貸出冊数の増加、読書習慣の定着化
家庭学習の確立	週5日以上家庭学習に取り組む生徒95%以上	・「週5日以上家庭学習をしている」と答える生徒の割合:93.1%(H29:88.5%) 【学校生活等に関するアンケート】	B	○ほとんどの生徒が課題を中心に取り組んでいる。放課後の自主学習への参加生徒も学年を問わず多数いる。 ●家庭学習時間調査の有効活用 ●課題量の教科間バランスの調整 ●学習に関する自己管理力の向上
学校行事や生徒会活動の充実と地域貢献	文化祭の満足度80%以上 まんぷくコンサートの充実	・学校祭では、生徒が意欲的に取り組み、特別支援学校等との連携を深めることができた。 ・「まんぷくコンサート」を平日夕方から土曜日午後に変更して開催した。実施し多くの来校者を集めた。 「学校行事に満足している」と答える生徒の割合:80.4%【学校生活等に関するアンケート】	A	○校舎も新しくなり、多くの方に本校の良さをPRできる機会となった。 ○「まんぷくコンサート」は、土曜日に開催することで、来航者が増加した。 ●秋のミニ学区祭の要素を含めた「まんぷくコンサート」の開催

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	
ウ	新大学入試への対応 (英語外部検定の検討)	内容を充実させ確実に実施 国公立大学の合格者50%以上	・学年ごとの進路ノートを活用した進路指導ができた。 ・新テストへ向けた情報収集に積極的に努めた。 ・英語の教員が軸となり、英語4技能に伴う英語検定の情報の共有化を図った。 ・進路指導年間計画を立て、先を見据えた準備、指導に当たった。 ・国公立大学合格者数は167人(60.1%)	B	○新大学入試に関わる文科省等の国の資料をDBに掲載し最新情報の共有化を進めた。 ○国公立大学への合格者数は目標を達成した。 ○英語4技能に関する資格検定への対応の方向性を明らかにできた。 ●進路ノートだけでなく1・2年の進路計画の作成 ●生徒への的確な情報提供 ●総合的な探求の時間の実施を見据えた、現在の指導の在り方の評価、改善
	丁寧な進路指導の実施	・大学訪問、卒業生との交流会、特別指導、土曜講座、学習し宿等の事業は、多くの参加生徒があり、を計画どおりに実施した。 ・生徒にとって質の高い進路行事を行うことができた。	A	○東大訪問では多数の本校OBの協力の下有意義な交流会となった。 ●各事業についての評価と見直し ●働き方改革を見据え、休日開催行事については大幅な見直しを検討し、早期に実施	
		・「プロフェッショナルと語る会」は、10人の講師を迎えて開催した。 ・文化講演会は、清水区長、現役医師(いずれも本校OB)を講師に2回開催した。	A	○プロと語る会は、職業意識を育て、目標に向かって努力することが大切であると、生徒に気付かせることができた。 ●公開授業と合わせて開催している「プロフェッショナルと語る会」は実施方法を検討(平日午後へ)	
	年3回以上実施	・学年により違いはあるが、面接週間等を利用して、少なくとも各学期に1回は実施した。 ・その他、1年部はテスト状況等による個別の呼び出し面談、2年部は「第一志望校宣言」、3年部は進路指導のしかるべき時期に適切な面談を行った。	A	○面接週間、夏季、冬季、第一志望宣言などに加え、個別に臨機応変な面談指導で成果をあげることができた。 ○面接週間が決められているため、クラス間での面接実施の取組に差が出ず良かった。 ●面談機会の確保(放課後に面談を設定できず、勤務時間外(学年によっては休日)に実施せざるを得ない実情	
エ	部活動の活動日、活動時間の見直し及び活性化	・本年度からの完全下校7時30分を受け、部活動の効率化が図られた。 ・生徒(部活)により完全下校の認識に多少の差がある。	A	○限られた時間を大切に使うという意識を、生徒だけではなく職員も持つことができた。 ○県ガイドラインに基づき、本校の部活動方針を策定した。 ●大会直前時などにおけるルール遵守の方策 ●生徒への周知と正しい理解の徹底	
	全国大会5部活、県大会10部活以上	・県大会は10部活以上出場したが、全国大会への出場が運動部1部活、文化部2部活であった。 ・「清高健児を応援する会」による支援：2人 ・「部活動に満足している」と答える生徒の割合：84.8%【学校生活劣に関するアンケート】	A	○運動部・文化部ともに高いレベルで文武両道が実践できている。 ○外部人材も有効に活用できている。	
	教育相談の充実	スクールカウンセラーによるカウンセリングを年間20回実施	A	○2年生1学期に心理テストを実施し、担任面談やカウンセリングにつなげられた。 ●学習のつまづきから自己肯定感の低下、不登校への連鎖に対する支援の方策	
	基礎体力の向上	新体力テストで10位以内	・新体力テスト男子2位、女子5位	A	●最優秀校を目指して、来年度も補強運動に重点
エ	思いやりの心を育む	すべての部活動で実施	・福祉委員会を中心に、ほぼ全ての部活動が、ボランティア活動を行った。「ボランティア活動」や「社会貢献活動」に積極的に参加している」と答える生徒の割合：35.1%【学校生活等に関するアンケート】	A	○生徒会や福祉委員会の呼びかけにより、生徒のボランティアに対する意識が向上した。 ●社会福祉協議会との一層の連携強化
	年25回の研修	・保健委員を対象に25回実施し、クラス内での実践を行った。	A	○コミュニケーション能力向上、クラスメイトへの積極的なかわりに、意欲的に取り組めた。 ●保健委員以外の生徒への参加拡充	

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		監督・指導の確実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・木曜日の昼休み、保健委員の清掃活動を24回実施した。 ・教員の指導の下、清掃活動をしっかり行った。 「環境を守ることの大切さを理解し、実践している」と答える生徒の割合：76.6%	A	<ul style="list-style-type: none"> ○新校舎の一足制に伴い、校内に土を上げないために呼びかけを行った。 ●校舎に土を上げない工夫の継続 ●ごみを出さない、ごみを分別するという環境保護を意識した取組の推進
オ	外部人材の積極的活用	外部人材を活用した部活動・学年部の満足度80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・「高大連携講座」「プロフェッショナルと語る会」「文化講演会」等において、大学教授や本校OB、地域専門家等の多彩な講師を向かえ進路行事を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各行事を通し、大学理解や職業選択、教養など、進路意識だけでなく、幅広い興味・関心を喚起することができた。 ●県事業の有効活用
	時間外勤務の縮減、休暇取得の推進	部活動における休養日設定100% 早期退勤の確実な実施 勤務時間割振りの確実な実施 休暇取得促進日の完全実施	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の休日は週1回以上、定時退庁日は月曜日と定めている。 ・時間外や休日勤務の代休の確実な取得を呼びかけたが、完全ではない。 ・夏季休業中の休暇取得促進は趣旨も理解されおおむね実施されているが、部活動の大会日程により取得できない職員がいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革の必要性は理解されつつある。 ●ガイドラインで時間外勤務の上限が示される中で、現実的・具体的な対応(勤務時間設定や日課見直し、部活動の在り方の検討など)が喫緊の課題
	業務のスクラップアンドビルドの推進	週休日、休日等の勤務時間外の取組を2つ以上減	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画に従って事業展開する中で、次年度に週休日の実施を検討する事業を洗い出しを進めた。 ・本年度は減少させることはできなかったが、効率化を図り時短を実現させる実施方法を工夫した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象アンケート(授業評価、生活実態調査、学校生活アンケート等)の実施にあたり、マークシートを導入し、担当者の集計の負担を軽減した。 ●「例年どおり」でなく、常に事業を点検・改善する意識
カ	校内内規等の見直し	改正内規集の完成	<ul style="list-style-type: none"> ・事業等を実施しながら、未規定事項や内規と実情との不整合等の検討・修正箇所の洗い出しを進めた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の見直しの推進、担当分掌等の明確化 ●修正内容の具体的な検討と内規への明文化
	外部の意見を学校経営に活かす	各委員会の計画的な実施 効果的な意見に対する確実な実行	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会等を年2回(6月：計画、2月：実績)実施した。 ・議事録を全教職員で共有し、いただいた意見や期待に応えるべく各事業を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の学校関係者評価や年度当初の意見を踏まえながら学校運営を進めた。 ●期待に沿いつつも、時間外勤務・週休日勤務等が増えない事業のやり方の見直し
	学校の情報の発信	週1回程度 行事や部活動大会、発表ごとの更新	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌や学年、部活動顧問など、各行事担当者が適時ホームページの更新を進めた。 ・一斉メールは、緊急時のほか、行事連絡や部活動成績などを発信した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○HPは情報量が充実し、清高メールによる情報発信は管理職、学年を中心に有効活用できた。 ●HP更新は全教員が更新できるよう研修会が必要 ●清高メールは発信元を明確として、信用性を高める必要がある。
		昨年以上の参加	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学参加者：【理科科】中学生197人、保護者122人 【普通科】中学生565人、保護者385人でいずれも昨年度以上の参加があった。 ・公開授業には、昨年度を上回る800人近い参加者があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○一日体験入学では、近年参加のなかった中学校からの参加があった。 ○公開授業の来校者アンケートでは、回答者の97%が本校に好印象を抱いていた。 ●普通科の開催場所を学校にすることを検討(一日体験入学) ●来校者が大変に多いため、公開回数の増、動線の分散化の工夫(公開授業)
キ		年2回	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員が7月と10月に市内外の中学校を訪問し、第3学年主任等に本校のPRと情報交換を行った。 ・中学校からの要望で訪問し、本校の概要・特徴について生徒に説明した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○本校について理解を深めていただくことができた。また、中学校の様子や要望をうかがうこともでき、有意義であった。 ●実施方法の検討(運営委員は放課後に訪問することとなり、中学校側にとっても時間がとりにくい実情がある)
		年2回	<ul style="list-style-type: none"> ・「清高通信」を2回発行するとともに、「学校案内」を補完するパンフレットを作成し、学校説明会や公開授業の際に配布した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○本校について幅広い視点で理解していただく一助となった。 ●配布範囲の拡大、配布方法の工夫 ●新聞部等が作成する校内情報チラシの活用
	教育目標に沿った学校経営を行う	毎週、管理職の打合せを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・定例以外にも必要に応じて管理職が集まり、情報共有を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を早期発見し、管理職間で方策を立て、共通認識をもって課題解決に向けた検討ができ効果的であった。 ○今後も継続する。 ●様々な改革が次々に進められる中で、教職員への的確な情報提供と優先順位を付けた迅速な対応が必要となる。

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
法令に基づいて正確かつ迅速に事務を遂行する	監査・検査における指示・注意0件	・「指示0件」、「注意0件」	A	○マニュアルに沿ったチェックができた。 ●今後も引き続きマニュアルに沿ったチェックを履行する。
予算の的確な執行	第4四半期（2月末）の執行率おおむね85%	・第4四半期（2月末）の執行率おおむね85%	A	○計画的かつ早期の予算執行ができた。 ●今後も予算の的確な執行に努める。